

## ソロモンの人生論（伝道者の書）

この難解な書物は、神様から離れて平安を見つけようとした人が、そこには空しさしかないことを悟った、光のない人生論を記しています。人生の疑問に対する唯一の解答を、本書は結論としています。すなわち、「神様を敬い、その命令に従いなさい。これこそ人間の本分だからです」（一二・一三）が、それです。この積極的な考えが導き出されるためには、幾つかの描写があり、それぞれは、神なしの生活がいかに不毛かを語っています。財産、知恵、名声、快樂など、すべては空しく、人がこの世にではなく、神様に心を向ける時にだけ、真の幸福を見いだせます。

一

1 ダビデ王の子で、エルサレムに住み、「伝道者」と呼ばれたソロモンの教訓。

2 私はこの世に価値のあるものなどないと思います。何もかも空しいのです。 3 - 7 人はあくせく働いた報酬として、何を手に入れるのでしょうか。

一つの時代は去り、新しい時代がきますが、少しも変わりばえしません。太陽はのぼっては沈み、またのぼろうと、急いで元の所へ帰ります。風は南に吹き、北に吹き、あちこち向きを変えますが、結局行き着く所ありません。川は海に注ぎますが、海は決してあふれることはありません。水は再び川に戻り、また海に流れて行きます。 8 - 11 何もかも、くり返しだけで、あきあきしてきます。どれだけ見ても満足はできません。どれだけ聞いても、もうこれで良いということはありません。

歴史はくり返すだけです。ほんとうの意味で新しいものなど、何もありません。たといあるように思えても、必ず前例があるか、すでにだれかが言いふるしたものです。何か「これは新しいものだ」と指摘できるものがありますか。それがずっと昔になかったと、どうしてわかるのですか。私たちは、先の時代にどんなことが起こったのか、忘れてしまいます。そればかりか、のちの時代には、私たちが今していることを、だれも覚えていないのです。

12 - 15 伝道者である私は、イスラエルの王で、エルサレムに住んでいました。私は宇宙のあらゆることを理解しようと、全力を注ぎました。その結果、神様が人間への分け前としてお与えになったものは、決して楽しいものでないことがわかりました。それはみな、ばかばかしく、風を追うように空しいものです。まちがいは直せません。覆水盆に返らず、です。以前あったかもしれないものを考えてみたところで、何の役に立つでしょう。

16 - 18 私は自分に言い聞かせました。「これまでのエルサレムのどの王より、いろんな勉強もした。どの王より知恵や知識を得た。」私はりこうになろうと、一生懸命に努力しました。ところが、今ではそんな努力さえ、風をつかまえるようだとわかったのです。りこうになればなるほど、悲しみも増えるからです。知識を増すことは、悩みを増すことにほかなりません。

二

12それで「よーし、愉快にやろう。思うぞんぶん楽しむことだ」と、ひそかに思いました。ところが、こうした生き方も実にくだらなことがわかりました。寝ても覚めても笑っていたら、頭がおかしくなったと思われます。それが何の得になるのでしょうか。

3 いろいろやってみてから、私は知恵を探求し続ける一方で、酒を飲んでみようと思ひました。

次に、もう一度考えを変えて、ばかになりきることにしました。普通にいう幸福も味わってみよう、と思ったからです。

4-6今度は、大規模な事業に乗り出して、仕事からくる充実感を得ようとししました。邸宅を建て、ぶどう園、庭園、公園、それに果樹園までつくり、良い作物を実らせるために貯水池までつくってみたのです。

78次に、男女の奴隷を買ひました。私の家で生まれた奴隷たちもいます。ほかに家畜の群れも飼ってみましたが、その数は以前のどの王よりも多かつたのです。さらに、多くの州や国から、税金として金銀をかき集めました。

文化活動としては、混声コーラス・グループやオーケストラを組織しました。

その上、大ぜいの美しいそばめがいたのです。

9 こうして、歴代のエルサレムの王もやらなかつたような、あらゆることをやってみました。両眼をしっかりと見開いて、これらのものの価値を見極めようとしたのです。10欲しいものは何でも手に入れ、したい放題の楽しみをしてみました。つらい仕事にも大きな喜びがあることさえ知りました。この喜びこそ、実に、あらゆる労働に共通した報酬なのです。

11 しかし、してきたことを振り返ってみると、どれもこれも役に立たないことばかりで、風をつかむようなものです。これこそ価値があると言えるものなど、どこにもありません。12そこで、知恵と無知の価値を比較してみることにしました。きっとだれでも、同じ結論に達すると思ひます。1314それは、こういうことです。光が暗やみより良いように、知恵は無知よりはるかに価値があります。りこうな人は物事を正しく判断しますが、頭の悪い人は、先のことがわかりません。ところが私は、りこうな人にも頭の悪い人にも共通点があることに気づきました。15頭の悪い人が死ぬように、この私も死ぬのです。だから、知恵をつけたって、いったいどうなるというのでしょうか。こうして、知恵をつけることでさえ空しいものだと思ひました。16りこうな人も頭の悪い人も死ぬのです。時がたてば、両者とも、すっかり忘れられてしまひます。17ここまできると、生きてるのがいやになりました。人生は不条理きわまりないからです。何もかもばかげていて、風をつかむようなものです。

18 一生懸命に築き上げたものが他人のものになると思ひ、うんざりしてききました。

19そればかりか、跡取り息子が馬鹿かりこうか、だれにわかるでしよう。それでも、私の財産は何もかも、息子のものになるのです。気分がめいることではありませんか。

20 - 23 こうして、満足感を与えてくれると考えていた労苦にも愛想をつかし、見切りをつけました。 たとい、生涯かけて知恵や知識や技術を追求しても、せっかく手に入れたものを全部、何もしないでぬくぬくとしていた者に、譲るはめになるのです。 彼が、私の汗の結晶をさらっていくのです。 不公平を通り越して、ばかばかしいことです。 どれほど必死に働いても、何の役にも立ちません。 あるものと言え、悲しみと悩みに押しつぶされそうな、心の休まらない日々と、眠れない夜です。 全くばかばかしい話ではありませんか。

24 - 26 そこで私は、食べたり飲んだりすることと、仕事を楽しむこと以外に生きがいはない、と判断しました。 しかも、このような楽しみさえ神様の御手から来るとわかったのです。 というのも、神様のお世話にならなければ、だれも食べたり楽しんだりはできないからです。 神様は、おこころにかなった者に知恵、知識、喜びをお与えになります。 ところが、罪人が金持ちになると、その財産を取り上げ、おこころにかなった者に分けてやるのです。 ここにも、風をつかむようなばかばかしさの一例があります。

### 三

1 何事にも時があります。

2 生まれる時

死ぬ時

植える時

収穫の時

3 殺す時

病気が治る時

こわす時

やり直す時

4 泣く時

笑う時

悲しむ時

踊る時

5 石をばらまく時

石をかき集める時

抱きしめる時

抱きしめてはいけない時

6 何かを見つける時

物を失う時

たいせつにしまっておく時

遠くに投げ捨てる時

7 引き裂く時

修理する時

黙っている時

口を開く時

8 愛する時

憎む時

戦う時

和解する時

9 一生懸命に働いたところで、何の利益があるでしょう。 10 このことを、神様が人間にお与えになったさまざまな仕事と関連して、考えてみました。 11 あらゆることには、潮時というものがあります。 神様はまた人間の心に、永遠を思う思いをもお与えになりました。しかし、人は神様の働きの全体を見ることができないのです。 12 私の結論はこうです。 第一に、できるだけ幸福に過ごし、人生を楽しむ以上に、すばらしいことはないということです。 13 第二に、人は、食べたり飲んだりして、自分の労苦の実を楽しみ、味わうべきだということです。 それは神様からの贈り物だからです。

14 続いて、次のことも知りました。 神様のなさることは一点の非の打ちどころもなく、何一つつけ加えたり、取り除いたりすることはできません。 神様はこのことを通して、人が全能の神様を恐れるようにと願っておられるのです。

15 今あるものは、ずっと昔にもありました。 これから起こることも、以前に起こっています。 神様は、はるか昔にあって今は跡形もなくなっているものを、再び実現しようとしておられるのです。

16 それだけでなく、世界中で正義がすたれて犯罪が増し、法廷さえ金次第になっていることがわかりました。 17 私は自分に言い聞かせました。 「神様はやがて、人間のしたことを、良いことも悪いことも全部おさばきになる。」

18 また、神様が罪深い今の世界をそのままにしておかれるのは、人間をテストするためであり、人間が獣と変わらないことを悟らせるためであることに気づきました。 19 人間も動物も、同じ空気を吸い、死んでいきます。 ですから、人間が獣より優れている点などないのです。 なんとばかげたことでしょう。 20 どちらも同じ所へ行くのです。 土から出て土に帰るのです。 21 こんなことを言うのも、人の霊は天にのぼり、動物の霊は地中深く降りて行くことを、だれひとり証明できないからです。 22 だからこそ、自分の仕事に生きがいを見いだす以上に幸福なことはない、と判断したのです。 これが地上にいる理由です。 未来に起こることを楽しめはしないのですから、今のうちに人生をぞんぶんに楽しむことです。

四

1 次に私は、世界中のしいたげと悲しみを見ました。 しいたげられる人が涙を流しても、だれも手を貸そうとしません。 一方では、しいたげる者たちは、しっかりと手を組んでいます。 2 ですから、死んだ人のほうが生きている人よりましだと思いました。 3

中でもいちばん幸福なのは、生まれて来なかった人で、地上の悪を見たことのない人です。

4 次に、物事を成功させる原動力は、ねたみであることを知りました。これもまたばかげたことで、風をつかむような話です。5 6 ばか者は、いっこうに働こうとせず、餓死すれすれの線をさまよいます。ところが結局は、空しいの一語に尽きるような労働を続けるより、のんびりその日暮らしをするほうが、ましだとわかるのです。

7 ばかばかしいことが、もう一つあります。8 息子も兄弟もいない一人暮らしの人が、もっと金持ちになろうと目の色を変えている場合です。この人は、だれに全財産を残そうというのでしょうか。全くつじつまの合わない、憂うつな話です。

9 二人が手を組めば、一人の場合の倍以上のことができます。結果から見れば、二人のほうがずっといいからです。10 片方が倒れても、もう一方が起こせます。ところが、一人の時に倒れたとなると、なんとも惨めです。

11 また、寒い夜、二人が一枚の毛布をかぶって寝ても、お互いの体温で暖かくなります。しかし、ひとりでは、どうにも暖まることができません。12 一人では、攻撃を受けると負けてしまいます。しかし二人なら、背中合わせになって戦うことができ、相手に勝つことができます。三人なら、なお結構です。三つ撚りの糸は、めったなことでは切れないからです。

13 貧乏でもりこうな若者は、どんな忠告も受けつけない年取ったばかな王よりましです。14 そんな若者は、牢獄から出て立身出世することでしょう。それどころか、生まれが卑しくても、王にだってなれるかもしれません。15 こんな若者なら、たとい王位を奪うことであっても、人々は喜んで協力するに違いありません。16 こうして彼は、幾百万もの人の指導者となり、非常に有名になるかもしれません。ところが、次の世代の人は、彼を追放してしまいます。これもまたばかげたことで、風をつかむような話です。

## 五

1 - 3 神殿に入る時は、聞き耳を立て、口は堅くつぐみなさい。神様に軽はずみな約束をするのは罪です。それがわからないほど、ばかになってはいけません。神様は天におられ、私たちは地にいるのですから、口数はできるだけ少なくすべきです。あまり忙しすぎると悪夢にうなされるように、ばかになると急におしゃべりになるものです。4 神様に、何かをしますと誓いを立てた時は、さっそく実行しなさい。神様は、ばかな人間をお喜びにならないからです。神様との約束は、どんなことがあっても果たしなさい。

5 何かをしますと言いながらしないより、初めから口にしないほうがずっと良いのです。

6 7 約束を果たさなければ、口で罪を犯すことになります。神様の使者に、誓いを立てたのはまちがいでした、などと弁解してはいけません。それを聞いて神様は腹を立て、あなたの財産を投げ捨てるかもしれないからです。夢ばかり見ていて実行しないのは、愚の骨頂です。意味のないことをぺらぺらしゃべると、滅びを招きます。そんなことをしないで、神様を恐れなさい。

8 貧乏人が金持ちにいじめられ、国中で正義が踏みにじられているのを見ても、別に驚くことはありません。 どの役人にも上役がいて、その上にさらに高官がいるからです。 こうして糸をたぐっていくと、官僚政治の壁にぶつかります。 9ところが、全体の上に王が立てられています。 もしその王が、国のために何もかもささげ尽くした王なら、どんなに素晴らしいことでしょう。 そうした人物だけが、国を混乱から救えます。

10 金銭を愛する者は、決してこれで満足だということがありません。 金さえあれば幸せだという考えは、なんとばかっていることでしょう。 11収入が多くなれば、それにつれて支出も多くなります。 だから、金銭にどんな利益があるのでしょうか。 指の間から漏れるのを見るのが、関の山です。 12汗水流して働く人は、食事の多少にかかわらず、ぐっすり眠ります。 しかし、金満家は不安につきまとわれ、不眠症に悩まされます。

13 14私はまた、ここかしこに深刻な問題があるのに気づきました。 せっかくの貯金が危険な投資に使われ、子供に残す財産もなくなってしまうという現実です。 15投機に手を出す者は、すぐさま、無一文の振り出しに戻ります。 16これは先に指摘したように、とても深刻な問題です。 どんなに働いても、ざるで水をくむようなものであり、風をつかむようなものです。 せっかく手に入れたものが、全部なくなってしまう。 17その上、残る生涯を、陰気に、失意と挫折感に打ち沈み、世間を恨んで過ごすことになります。

18 こうは言っても、良いことだって、少なくとも一つはあります。 生きている限りは、おいしい物を食べ、上等のワインを飲み、置かれた立場に甘んじ、与えられた仕事がどのようなものであれ、それを楽しむことです。 19 20神様のおかげで財産家になり、そのうえ健康にも恵まれているとしたら、それこそ申し分のないことです。 仕事を楽しみ、与えられた人生に満足することこそ、神様からの贈り物です。 こういう人は、神様から喜びを与えられているのですから、悲しい思いで過去を振り返る必要などありません。

六

12ところで、至る所に、鼻持ちならない悪がはびこっています。 ある人は、神様から巨万の富と名誉をいただき、欲しいものは何でも手に入る身分でありながら、人生を楽しむだけの健康に恵まれていません。 そのため早死にして、全財産を他人の手に渡してしまいます。 これは実に悪質な冗談で、やりきれない思いがします。

3 一方では、百人の息子と娘に恵まれ、長寿を全うしながら、わずかばかりの遺産もなく、子供たちは満足な葬式さえ出せないことがあります。 この人は生まれて来なかったほうがましです。 4誕生が喜ばれず、闇から闇に葬られ、名前さえつけてもらえず、 5陽の目も見ず、その存在さえ知られないとしても、みじめな老人になるよりずっとましです。 6何千年生きたとしても、満足することがなければ、生きていることに何の価値があるのでしょうか。

7 8りこんな人もばか者も、食べ物を得るために人生を費やしますが、もうこれで十分だということがありません。 そういう意味では、どちらも同じです。 しかし、貧しくて

もりこうな人は、ずっとまじな生活をしています。 9 手の中の一羽の鳥は、やぶの中の二羽より価値があります。 あこがれているものを夢見ているだけでは、ばかばかしいことで、風をつかまえるようなものです。

10 あらゆるものには定まった運命があります。 それぞれの将来は、ずっと以前からわかっています。 だから、自分の運命について神と議論してもむだです。

11 しゃべればしゃべるだけ、口にすることばの意味が薄れてきます。 だから、全然しゃべらないほうがましです。

12 空しい人生のわずかの歳月だというのに、どうしたら最高の生き方ができるのかわかりません。 死んだ先のことまで考えると、何が最善かを言い当てることはできません。 将来の見通しのつく人は、一人もないからです。

七

1 良い評判は、最高級の香水より値打があります。

死ぬ日は、生まれた日よりたいせつです。 2 宴会に顔を出すより、葬式に列席するほうが得です。 私たちはやがて死ぬ運命にあるのですから、まだ生きているうちに、死について考えるのは良いことです。 3 悲しみは笑いよりまさっています。 悲しみは、私たちの心から不純物を取り除く効果があるからです。 4 りこうな人は死についてじっくり考えますが、ばか者は今どうしたら愉快に過ごせるかだけを考えます。

5 ばか者からちやほやされるより、りこうな人から痛烈な批評を受けるほうがましです。

6 ばか者のお世辞は、火にくべた紙切れのように、何の役にも立ちません。 そんなものに心を動かすとは、ばかもいいところではありませんか。

7 りこうな人でも、わいろによってばか者になります。 わいろは人の判断力を麻痺させるからです。

8 物事の終わりは初めよりまさっています。 忍耐は高慢に勝ちます。 9 短気を起こしてはいけません。 短気はばか者の特徴です。

10 過ぎ去った昔の栄光に未練を残してはいけません。 ほんとうに昔が今より良かったかどうか、わからないからです。

11 りこうになることは、金持ちになると同じくらい価値があります。 いや、それ以上です。 12 知恵からでも金銭からでも、利益をあげることができます。 しかし、りこうになることのほうが、多くの利点があります。

13 神様のなさることに目を留め、それに従いなさい。 自然界の道理を敵に回してはいけません。 14 順境の時には、できるだけ楽しみなさい。 逆境が訪れたら、神様は与えると同時に取り上げる方だと知りなさい。 こうしてすべての人が、この世ではあらゆるものが空しいと悟るのです。

15 - 17 私は、このばかげた人生のすべてを見てきました。 善人が若死にし、悪人がうんと長生きすることだってあるのです。 だから、正しすぎるのも困るし、りこうすぎても困るわけです。 極端に走って自滅してはいけません。 一方、悪人になりすぎるの

も問題だし、ばか者になるのも考えものです。天寿を全うする前に死んではいけません。

18 任せられる仕事は、どんなことがあっても手放してはいけません。神様を敬っているなら、きっと神様からの祝福を期待できるのです。

19 知恵のある人は、十都市の市長を合わせたより力があります。20 この世界には、いつも品行方正で、一度も罪を犯さない人など一人もいません。

21 22 人の言うことをいちいち気にしてはいけません。ことによると使用人からのろわれるかもしれません。あなただって、何度も人をのろったはずです。

23 私はりこうになろうと、できるだけのことをしてみました。「きつとりこうになってやる」とも、人前で言うてみましたが、はったりにすぎませんでした。24 知恵は遠いかなたにあって、探し出すのはきわめて困難です。25 私は知恵と物事の道理を見つけようと、四方くまなく探しました。また、軽率な行為がどれほど悪く、ばかにつける薬はないことを、身をもって知ろうとしました。

26 売春婦は死よりも大きな苦痛を与えます。神様に喜ばれる者は恵みによって、彼女から逃れますが、罪人は彼女のしかけた罠にかかってしまいます。

27 28 「私の結論はこうです」と、伝道者は言います。私はあらゆる方面から調べてみて、次のことを確信するようになりました。私が面接した男性の千人に一人は、確かに知恵がある人物です。しかし女性の場合には、一人の該当者もいませんでした。

29 さらに、こんなこともわかりました。神様は人を正しい者に造られたのに、だれもがかってに向きを変え、罪の生活へと走りだしたのです。

八

1 知恵を身につけて、物事を正しく判断し、さらに分析し説明できる能力があつたら、なんとすばらしいことでしょう。知恵は人の顔をぱっと明るくし、顔の堅さをほぐします。

23 誓ったとおりに王に従いなさい。いつでも、どんないやなことであっても、義務から逃げようとしてはなりません。王は不従順な者に罰を加えるからです。4 王の命令は大きな権力に裏打ちされているのですから、それに逆らったり、疑問を差しはさんだりできる者はいません。5 従順にしていれば罰せられることもありません。りこうな者は、自分のことばを実行する、時と方法とを知っています。67 そうです。すべてのことに時と方法があるものです。たとい、困ったことが頭上に重くのしかかっている場合でもです。人は、自分の知らないことが身に降りかかるのを、避けることはできません。

8 だれも、たましいが体から離れるのをとどめることはできません。だれも、自分の死ぬ日をかけてに決めることはできません。この暗黒の戦いを免れることは、絶対にできないのです。その場に臨んだら、どんな悪人でも、じたばたしないことです。

910 私は、人々が支配したりされたりして互いに傷つけ合っているすべてのことを、深く考えてみました。悪者の葬式をすませ、墓地から帰って来る時には、友人たちは故人のした悪事をすっかり忘れています。それどころか、この男は、生前に多くの犯罪を重



ねた当の町で、ほめそやされるのです。　なんとおかしい話でしょう。　1 1 神様はすぐに罪人を罰しないので、人々は悪いことをしても別にこわくないと思っているのです。　1 2 百度も罪を犯して、なお生き長らえている人があるとしても、神様を敬っている人のほうが、ずっとしあわせです。　1 3 悪者どもは長生きできませんし、幸福な生活も送れません。　彼らは神様を敬わないので、その一生は影のように素早く過ぎ去ります。

1 4　この地上では、奇妙なことが起こっています。　善人が悪人のような待遇を受け、逆に、悪人が善人のような待遇を受けている事実です。　これもまた、なんとも割り切れない思いにさせられます。

1 5　そこで私は、おもしろおかしく一生を送ろうと決心しました。この世に、食べて、飲んで、愉快地にやること以外に良いことはない、と考えたからです。　この幸福は、神様が世界中の人に与えておられるつらい仕事に、くっついてくるものです。

1 6 1 7 私は知恵を尋ね求めている間に、地上での、休むことのない、人の活動を観察してみました。　すべてのことを見抜くのは神様だけでした。　自分は何でも知っているんだとうそぶく、知恵のかたまりのような人でも、実はわずかのことさえ知らないのです。

九

1　私は注意して、次のことも調べてみました。　神様を敬う人も知恵のある人も、神様のご計画の中にあるということです。　はたして神様が自分をひいきにしてくださるかどうかは、だれにもわかりません。　何もかも偶然の組み合わせなのです。　2 3 善人であろうが悪人であろうが、宗教の有無を問わず、神様をののしる者であろうが敬う者であろうが、どんな人も、同じ摂理で動かされています。　すべての人に同じ結末がくるとは、なんと不公平でしょう。　だからこそ、人は正しく生きようとはせず、むしろ、気違いじみた道を選ぶのです。　待ちかまえているのは死だけですから、希望などありません。

4　生きている人にだけ、希望があります。　「死んだライオンより、生きている犬のほうがましだ」と言われるとおりです。　5 生きている者には、少なくとも、自分は死ぬという自覚があります。　ところが、死んだ者は何一つわからないのです。　記憶さえありません。6 愛したこともねたみ憎んだことも、とっくの昔に消えてなくなり、もはやこの地上には、一つも分け前がないのです。　7 だから、食べて、飲んで、愉快地にやるに限ります。　そうしたからといって、神様にはどうということはないのです。　8 かぐわしいオーデコロンを振りかけ、すてきな服を着なさい。　9 短い一生の間、愛する女性と幸福に過ごしなさい。　神様が下さった妻は、地上での労苦に対する最大の報酬だからです。

1 0 何をするにしても、りっぱに仕上げなさい。　これから行こうとする死の世界では、仕事も計画も知識も理解力もないからです。

1 1　私は再びこの世界を見て、足の速い人が必ずしも競走で勝つとは限らず、強い人が必ずしも戦いに勝つわけでもなく、りこうな人がかえって貧乏暮らしをし、腕はあっても認められない人がいることを知りました。　あらゆることが偶然の組み合わせであり、出る場所と時が良ければ、勝運に恵まれるのです。　1 2 いつ悪運にみまわれるかを知って

いる人はいません。人はみな、網にかかった魚、罾にかかった鳥のようです。

13 人間界の出来事を見つめてきた私に、もう一つ深く印象に残っていることがあります。14 人口の少ない町があり、そこに強い王が大軍を率いて攻めて来て、包囲した時のことです。15 この町に、知恵はありながら非常に貧しい人がいました。この人は町を救う方法を知っていたので、町の解放に力を尽くしました。ところが、あとになると、だれひとり彼のことを思い出さないのです。16 このことから、なるほど知恵は力以上のものだが、その人が貧しければ、さげすまれ、言ったことも感謝されないのだとよくわかったのです。17 しかし、そうは言うものの、知恵ある人の穏やかなことばは、薄ばかな王のどなり散らすことばより、値打があるのです。18 知恵は武器にまさるものですが、たった一回のミスで、物事全部をだめにもします。

一〇

1 死んだハエは、香水さえ臭くします。同じように、ちょっとした過失でも、多くの知恵と名誉をだいなしにします。2 理こうな人は正しい道に足を向け、ばか者は悪の道に向かいます。3 どこを歩くかで、その人がわかります。

4 上役にしかられても、職場を放棄してはいけません。冷静な態度は、相手の不きげんをなだめるものです。

5 世の中の移り変わりに注意していると、もう一つの悪が目につきました。王や支配者のことです。6 ばか者に大きな権威が与えられているのに、理こうな人で、当然と思える社会的地位さえ与えられていない人を知っています。7 また、召使が馬上でふんぞり返り、君主が召使のように歩いている姿も見ました。

8 9 井戸を掘ると中に落ち、古い石垣をこわすと蛇にかまれます。採石場で働いていると落石につぶされることがあり、斧を振り上げるたびに危険にさらされます。

10 斧の切れ味が悪くなると、力ばかりいるようになります。そんな時には、頭を働かせて刃をとぐことです。

11 馬が盗まれてから馬小屋に鍵をかけても、あとの祭りです。

12 13 知恵あることばは心地よいが、ばか者のおしゃべりは身を滅ぼします。彼の話の前置きがばかげているかと思えば、その結論も気違いじみしています。14 ばか者は将来について何でも知っているふりをして、事細かに話して聞かせます。しかし、これから起こることは、だれにもわからないのです。15 ばか者はちょっとした仕事にも動揺するので、ごくささいなことにも力を出せません。

16 17 王が幼く、指導者たちが朝っぱらから酔っている国は、とんでもない目に会います。王は名門の出で、指導者たちは勤勉を第一と心がけ、これからの仕事の景気づけをする時にだけ宴会を開いて飲む国は、しあわせです。18 怠けていると、天井から雨がもり、たるきが腐ってきます。19 パーティーは笑いを、ぶどう酒は幸福感を、金はいっさいのものを与えます。20 たとい心の中であっても、王をのろってはいけません。金持ちをのろってもいけません。小鳥が彼らに、あなたがどんなことを言ったかを告げ

るからです。

一一

1 気前よく与えなさい。あとになって、与えたものが戻ってくるからです。2 持っているものを、人々に分け与えなさい。あとになってあなたも、人から助けをもらうことになるからです。

3 雲が垂れこめると雨が降ります。斧が木にあてられるとは、木が北に倒れようが南に倒れようが、すでにさいは投げられたことを意味します。4 条件が良くなるまで待っていたら、何一つ仕上げることはできません。5 神様のなさることは風の通り道と同様に神秘的です。それはまた、母親の胎内の赤ん坊にたましいが吹き込まれるのと同じように、不可思議なものです。6 手を休めずに種をまきなさい。どの種が芽を出すか、わからないからです。ひょっとしたら、ぜんぶ芽を出すかもしれません。

7 生きていることは実に素晴らしいことです。8 長生きしている人は、一日一日をぞんぶんに楽しみなさい。ただし、永遠と比べたら、地上のことはみな空しいことを覚えておきなさい。

9 若い人よ。若いことは実に素晴らしい。四六時中、青春を謳歌しなさい。したいことは何でもしなさい。欲しいものは何でも手に入れなさい。しかし、自分のしたことはみな、神様の前で申し開きをしなければならないことを覚えておきなさい。10 だから、悲しみと痛みとを取り除きなさい。青春時代は前途が洋々としているとはいえ、重大な過ちを犯しがちでもあることを、忘れてはいけません。

一二

1 若さに酔って、あなたの造り主である神様を忘れてはいけません。生きていることを楽しむ余裕などない逆境の時がくる前に、若い日に神様を信じなさい。2 年をとり、陽の光や月、星がかすんでよく見えず、夢も希望もなくなってから、神様を思い出そうとしても手遅れです。3 やがて、手足が老齢のため震えるようになり、しっかりしていた足も弱くなり、歯がなくなって物もかめず、目も見えなくなる時がきます。4 歯がなくなれば、物を食べる時でも、もぐもぐするばかりです。鳥がさえずり始める朝早く目が覚めても、あなたは耳が遠くて聞こえず、声もしわがれてきます。5 あなたは、高い所をこわがり、転ぶことを案じる白髪のしわだらけの老人となり、足を引きずりながら歩きます。性欲もなく、死の門のそばに立ち、死んだ人を嘆く者のように、永遠の家へと近づいて行きます。

6 もう一度いいます。まだ若い今のうちに、あなたの造り主を思い出しなさい。銀色のいのちのひもが切れ、金のおわんがこわれ、水がめが泉のそばでこわれ、滑車が井戸のそばでこわれない前に。7 やがて、ちりは元の地に帰り、たましいは、これを授けてくださった神様のもとに帰ります。8 伝道者は強調します。何もかも空しいのだ、と。

9 しかし、伝道者は知恵があったので、自分の知っていることをぜんぶ人に教えました。また、さまざまの人生訓を集め、それを分類しました。10 知恵があっただけでなく、

優れた教師でもあったからです。彼は人々に、自分の知っていることを興味深く教えたのです。 1 1 知恵ある人のことばは、家畜を追い立てる突き棒のようなものです。それは、たいせつな真理を逃しません。教師の語ることを身につける学生はりこうです。

1 2 注意してください。人の意見には際限がありません。それをぜんぶ学ぼうと思ったら、いつになっても終わりがなく、疲れきってしまいます。

1 3 これが私の最終的な結論です。神様を敬い、その命令に従いなさい。これこそ人間の本分だからです。 1 4 神様は私たちのすることは何でも、人目につかないものでも、善でも悪でも、みなさばかれるのです。

■